平成30年度地震・津波防災訓練
（内閣府・四万十市）

実施報告書
（概要版）

高知県四万十市について

四万十市は、高知県西南部に位置し、豊富な山林資源と日本を代表する清流四万十川、南東部は太平洋に面しており、自然環境に恵まれた、旧中村市と旧西土佐村が平成17年に合併して誕生した人口約34,000人のまちです。

四万十市は、沿岸部は津波、中心部は液状化、河川流域は洪水、中山間部は土砂災害等の災害特性を有しています。

特に、南海トラフ地震・津波に備え、津波避難路、津波避難タワー、防災活動拠点、防災コミュニティセンター、防災行政無線等を整備するとともに、住宅耐震化支援、避難所運営マニュアルの策定、自主防災組織への支援等を行っています。

また、津波避難訓練を市内津波浸水想定区域を対象に平成24年度に初めて実施して以来、毎年継続して行ってきています。

平成30年度地震・津波防災訓練（内閣府・四万十市）

訓　練　概　要

■訓練想定：　11月3日午前9時に、南海トラフを震源とするM9.0の地震が発生し、四万十市では、最大震度7を観測、大津波警報も発令された。
　四万十市は、地震発生後直ちに災害対策本部を設置するとともに、市民に対して、防災行政無線等により、津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成30年11月3日（土）09：00～12：00

■主　　催：内閣府、四万十市

■参加者数：約2,000名

■参加機関：自治会・自主防災組織、小学校、陸上自衛隊、海上保安庁
日赤、気象台、警察、消防等

訓 練 の 評 価

　訓練は、内閣府の「地震・津波防災訓練」及び「四万十市みんなで防災訓練」を連携し、市内全域を対象に全世帯に参加を呼びかけて実施した結果、初めて実施した地区内安否確認訓練（黄色いハンカチ作戦）に約4,700世帯、防災訓練に約2,000名（うち津波避難訓練に約400名）と、自治会・自主防災組織、小学生及び防災関係機関等の多数の人達が参加して実施された。
　これは、平成24年度以来、毎年津波避難訓練等を重ねてきた成果であり、市民の津波などの防災への関心も高く、終始熱心かつ真剣に取り組んでおり、有意義な訓練となった。

　訓練終了後、各訓練会場で実施したアンケート調査結果や防災関係職員の所見、評価記録員の気づき事項等を整理した。この結果、「災害時に備えた良い準備ができ、勉強になった」「訓練は回数を重ねることが大切であり、次回も真剣に取り組みたい」「津波避難に連携して、いろいろな訓練をやっておく必要がある」などの意見の一方で、次のような課題も明らかになった。

●家族との連絡手段を決めていない人が、約半数の46%いたが、複数の連絡方法をあらかじめ家族で話し合って決めておくとともに、避難先などもルール化して共有しておくことが必要である。

●家具の固定をしていない人が28%、一部の人が59%いたが、比較的簡単に実施でき、直ぐに効果も発揮するので、必要性を周知・徹底するとともに、要配慮者やお年寄りの家庭には、共助や公助の支援も必要である。

●市として初めて実施した総合防災訓練であり、これまで連携の少なかった陸上自衛隊や海上保安庁等と一緒に訓練できた成果は大であったが、今後はライフラインやインフラ関係の事業者等、企業の参加拡大に取り組みたい。

●津波避難訓練は、各地区における津波到達時間を考慮した避難方法・要領の検討も必要である。

平成30年度地震・津波防災訓練（内閣府・四万十市）

当日の訓練内容

09:00～09:05　シェイクアウト訓練

四万十市全域を対象に、自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、住民、小学校、災害対策本部の職員等が、一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

▼竹島小学校

▼竹島小学校

▼市防災センター

09:05～09:30　津波避難訓練等

シェイクアウト訓練後、下田及び八束地区の竹島小学校の児童や住民は、各々示された津波避難場所への避難を実施した。

▼竹島小学校

▼住　民

▼地区内安否確認訓練（黄色いハンカチ作戦）

10:00～12:00　防災活動拠点（八束）・一時避難場所（下田）運営訓練等

八束地区の防災活動拠点の運営訓練や下田地区の一時避難場所の運営訓練として、各種の訓練を実施した。

▼テント設営訓練

▼物資搬送･受入訓練

▼炊き出し訓練

09:00～12:00　その他の訓練

市防災センターで市災害対策本部運営訓練、不破地区河川敷で県緊急消防援助隊展開訓練、竹島小学校で防災学習等、各種の訓練を実施した。

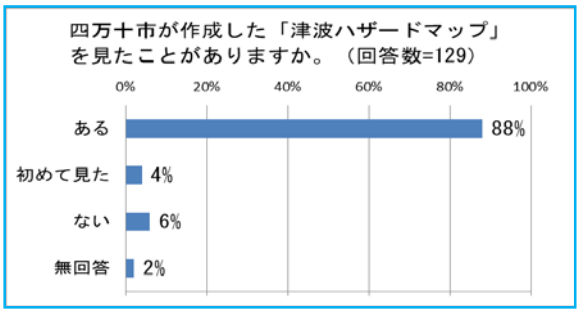
▼市災害対策本部運営訓練

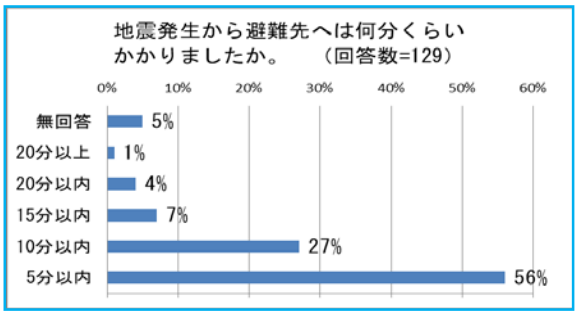
▼県緊急消防援助隊訓練

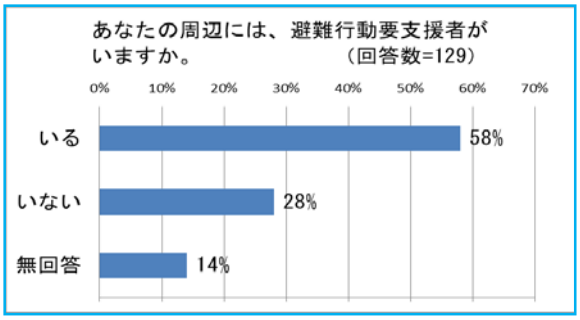
▼防災学習（竹島小学校）

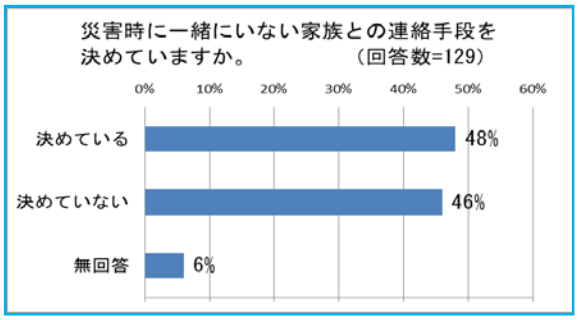
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（全回答数：129人）









【自由意見】

- 自主防災組織や市民の一人として防災訓練等に取り組んでいくので、一人でも多くの人が助かるように、行政としてできることをお願いしたい。
- 災害時は、避難所が不足すると思われるので、避難者用のテント設営訓練をやっておくことは必要だと感じた。
- テント設営訓練等を初めて体験し、良い勉強になったが、実際にやったことがないと、少し難しいと感じた。
- 造水機を使って四万十川の水を浄水したが、実際に飲料水として飲むことができたので、安心した。
- 現在のところ、直ぐに支援が必要なほどの状態ではないが、病気のため、歩くのが遅く、皆と一緒の行動ができないことが不安になる。
- 災害時は、圧倒的にトイレが不足すると思うので、簡易トイレの設営訓練を実施しておくことは重要だと思う。
- 炊き出し訓練で、皆でカレーライスを作ったが、もっと手軽に作れるお握り等の方が良いと思った。
- 訓練で改善すべきことを着実に改善していくことが重要であり、そうでないとせっかくの訓練も役に立たないように感じた。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan